●第二中学校校舎の建て替えに関する住民説明会【令和５年２月１日（水）１８時半～　於：弘前市民体育館）】質疑応答

質問	回答
第二中学校への「勤労青少年ホームのうち町会等地域活動に対応した機能の一部」と「城西老人福祉センターの機能の一部」の集約を検討しているとのことだが、具体的にどのようなものを考えているのか。	町会の定例会などでお集まりいただく際に使っていただけるものや、利用者がゆっくり過ごすことができるもの、また、多目的に使っていただけるものを検討している。 今後、地域の皆様のご意見を伺いながら詳細な検討を進めていくが、現時点ではこのように考えている。
公共施設の機能集約により、学校関係者以外の学校敷地内への出入りが増えることが想定されるが、生徒の安全確保に関して対策などはどのように考えているか。	現時点では、生徒が日常的に使用する学校施設部分と公共施設部分を管理用扉で分離し、学校施設部分に簡単に進入することができないようにする対策などが考えられる。 公共施設を利用する地域の方の目が、生徒の安全確保につながる部分もあると考えられるため、課題を整理して検討を進めていく。
今回の建て替えの対象から外れている屋内運動場と武道場は、校舎と同様に、築50年経過を目安として、将来的に建て替えを行う予定なのか。	弘前市学校施設個別施設計画に基づき、各建物の老朽状況等をみながら、将来的に長寿命化改修や改築を行う予定である。
現在、町会の定例会や民生委員の定例会で勤労青少年ホームを無料で利用している。第二中学校に勤労青少年ホームの機能の一部が集約されることを機に、今後は利用者による施設使用料の負担が発生することとなるのか。	市内にある交流センターのように、今後は施設使用料をご負担いただくことを検討しているが、地域の方々が気軽に利用できる料金設定とする予定である。
冬期間は生徒を車で迎えに行く保護者が多い。学校敷地内の駐車場が狭いため市民体育館の駐車場に車を停め、生徒はそこまで歩いている。生徒の負担は大きい。広く使いやすい駐車場にすることに配慮してもらいたい。車が入りやすくなることで、地域の人たちも施設を利用しやすくなる。	狭い駐車場が課題であることは認識している。今後、皆様のご意見を伺いながら検討を進めていく。
生徒数の将来推計と、それをどのように校舎の設計に反映させていくのか。	あくまで現時点での推計値だが、新校舎の供用開始を予定している令和９年度には３６０人、令和１５年度には２７０人になるものと見込んでいる。 これらの将来推計も参考にしながら、今後、新校舎の基本方針を検討していく。
地域住民として学校に期待するのは、災害時の避難所となること。避難所として利用することに関して、新校舎にどのような機能を設けることを考えているのか。 第二中学校は、洪水時の避難所になっていないものの、切迫した状況になれば垂直避難することも想定されるため、このことにも配慮していただきたい。	避難所としての機能に関して、現時点で具体的なものは決まっていない。今後、プロポーザルでの設計業者からの提案や地域の皆さんからのご意見を参考にしながら、具体の検討を進めていく。
正門を入ってすぐのところに「哲学の森」（植栽等）がある。自身が第二中学校に通っていた頃からあるもので、思い出深い。庭をはじめとする、緑豊かな環境整備に関する考えを伺いたい。	現時点で、具体的な方向性は決まっていない。学校敷地内にある石碑や植栽に関しては、地域の皆様のご意見を伺いながら、後世に残していくものは必要に応じて移設するなど、対応を検討していく。 学校敷地の有効活用を図りつつ、歴史や思い出を残していくことにも配慮して、今後、検討を進めていく。
令和９年度供用開始予定とのことだが、市の財政事情等により、事業スケジュールが遅れる可能性はあるか。また、これまでに実施した建て替え事業等で遅れたことはあるか。	弘前市学校施設個別施設計画に、建て替え工事のほか、屋根改修工事や屋内運動場暖房機器更新工事などの今後５年間の実施計画を掲載しているが、これらは、進捗の修正等により毎年度計画変更を行っている。 市の財政事情等による進捗の変更が発生する可能性はあるが、今年度から事業に着手していることから、令和９年度供用開始を目指して計画的に事業を進めていく。

●第二中学校校舎の建て替えに関する住民説明会【令和５年２月２日（木）１８時半～　於：河西体育センター）】質疑応答

質問	回答
新校舎のイメージ例で説明のあった文部科学省が示す「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」とは、現在、文部科学省が示している方針か。	現在示している直近の方針である。
通学路が狭いことも課題の１つと考える。公共施設を複合することを考えても、ただの校舎の建て替えでなくまちづくりのようなイメージで慎重に進めていく必要があるのではないか。	通学路を含め、第二中学校へのアクセス性の向上は課題の１つであると認識している。地域の皆様のご意見を伺いながら、検討を進めていく。
勤労青少年ホームの機能の一部を集約するということだが、今の勤労青少年ホームや市民体育館はどうなるのか。 下町なかよし会（学童保育所）は勤労青少年ホームに常設しているものと認識している。第二中学校に下町なかよし会も集約される可能性があるのか。	勤労青少年ホームの現在の建物は廃止となり、令和６年度以降に解体する予定。市民体育館については、今のまま使用していく予定である。 下町なかよし会は、これまで勤労青少年ホームに常設していたが、令和５年度から城西小学校に移転するため、第二中学校への移転は検討していない。
事業費はどの程度を見込んでいるのか。	新校舎の整備方針など、今後、具体の検討を進めていくため、現段階でお示しするのは難しい。
公共施設を複合することで、地域に開かれた学校となる。生徒の安全確保に配慮が必要と考えるが、どのように考えているか。	防犯カメラの増設や電気錠による管理などが考えられる。
学校の建て替えと公共施設の複合ということだが、学校整備課と管財課どちらが主導で事業を進めていくのか。	どちらか一方が先導して進めていくということでなく、連携して進めていく。また、学校整備課と管財課だけでなく、複合する公共施設の所管課などその他の関係課とも連携して進めていく。
建て替え工事は近隣住民に配慮しながら行っていただきたい。大規模な工事では地盤沈下の発生もありうるため、慎重に進めてもらいたい。	建て替え工事に着手する前に、地質調査を行い、調査結果を踏まえ、慎重に進めていく。
既存の校舎は建て替えを要するほど古く老朽化が進んでいるということだと思う。新校舎の建て替え事業を進めている間も、生徒たちはその校舎を使用し続けるため、そのことに配慮して、部分修繕を怠らないようにしてほしい。	新校舎建て替えの事業を進めている間も、生徒の安全・安心を確保するために、これまでどおり部分修繕は行っていきたいと考えている。
ワークショップの開催は良い取り組みだと思う。地域住民に対し、多くの情報を発信しながら事業を進めてもらいたい。	地域の皆さんのご意見を伺いながら、事業を進めていく。
建て替え工事中は、生徒たちはどこで授業を行うのか。また、建て替え工事によって通常できるはずの授業や学校活動ができなくなってしまう可能性はあるか。	現在のグラウンド部分に新校舎を建てるのか、あるいは、既存の校舎を取り壊してその場所に新校舎を建てるのかなど、事業の進め方によって変わってくるが、現段階では方向性が決まっていないため明確な回答はできない。もしも既存の校舎を使い続けながら現在のグラウンド部分に新校舎を建てることとなれば、体育の授業に影響する可能性があるが、可能な限りそのような影響がないよう、生徒への負担を軽減できるよう努めていく。
生徒数の将来推計を知りたい。	あくまで現時点での推計値だが、新校舎の供用開始を予定している令和９年度には３６０人、令和１５年度には２７０人になるものと見込んでいる。
スクールバスが学校敷地内に入れるようにしてもらいたい。そのために、広い駐車場となるよう校舎の配置などを工夫してもらいたい。	狭い駐車場が課題であることは認識している。今後、皆様のご意見を伺いながら検討を進めていく。